

令和5年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第7回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2023年10月7日（土）6:30～11:40

参加者：5名（学生：2名 教職員：杉山、中澤、中城）

■実施場所：春日山原始林

■第7回 朝の春日山原始林

概要：早朝の春日山遊歩道をゆっくり歩き、途中、寝転んだりしながら、朝の森の空気を体感します。自然の中で過ごすことの心地よさを通じて、人間が自然の一部であるという感覚を実感します。

6:30 春日大社本殿カフェ前集合

6:40 挨拶・フィールドワークスタート

7:00 春日山遊歩道 ナギ・月日磐・ムラサキシキブ等について

7:50 耳を澄ます体験

8:00 森で朝食、寝転ぶ

8:40 ゆっくり遊歩道を歩く（ムササビの食痕、コジイの実、ケヤキの実等）

11:00 若草山山頂到着（三角点確認）若草山から下山

11:40 若草山下山（北口）・解散

■概要報告

早朝の春日山原始林を体感することを主目的に企画を行った。この日は曇り空であったが、清々しい時間を過ごすことができた。普段よりもゆったりとしたペースで森を歩き、史跡や自然についてもじっくり体感をしてもらう様に心がけた。早朝で野鳥の声もよく聞こえるため、耳を澄ます体験を好きな場所でじっくり聞いてもらう形とした。水の流れる音がよく聞こえる場所で通常のプログラムでは水の音を印象に残る音として発言する方が多いところ、リラックスしている状況からか、それ以外の音（鳥の声、風の音、足音など）が印象に残ったという発言が印象的であった。

朝の森で座って時間を過ごすことは、あまり経験がないことであると考え、道端にシートを広げて朝食を取る時間を設けた。ゆっくり朝食と温かいお茶を飲んだのち、地面に寝転んでしばらく過ごした。時折通りすぎる人もいたが、ゆったりと森に寝転んで雲の流れを見たり、森の空気をたっぷり吸い込んでもらい、自然の一部である感覚を少し体感してもらうことができた。

それ以降は、疲れないペースでゆったりと歩きながら落ちていく木の実（コジイ、ケヤキの実、シデ類の実）を観察するものの、ただただ自然の中を歩いて気持ちよさを感じる体験とした。

山頂付近では、昨年度実施の際にも遭遇したマムシに同じ様な場所で遭遇するなど、生き物との出会いも体験することができた。

若草山山頂からの風景、鶯塚古墳の三角点からの風景をゆったりと楽しんだのち、若草山を下山。ナ

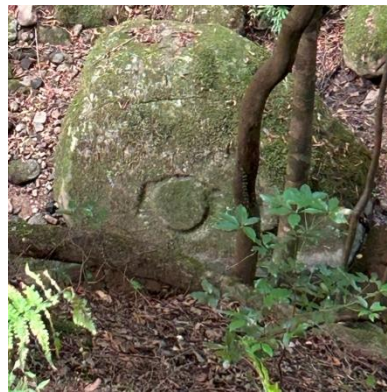
ンキンハゼの繁茂の状況を確認しながら、春日山～御蓋山～奈良公園と続く風景を眺めた。下山はこれまで南ルートを取っていたが、今回は北ルートを取り下山した。

参加した学生は、森の中でリラックスして過ごすことができたことを印象深く語っていた。また、普段見過ごしている自然の不思議にも気づき原始林や自然の不思議さを楽しんだ様であった。

■写真



野鳥の巣が地面に落ちていた



月日磐



月日磐の解説中



森林ギャップと春日山の現状についての解説



好きな音を探して歩く



今年もマムシに出会えた。